

令和7年度 学校評価

白子町立南白亀小学校
校長 白井 美奈子

評価 の 項目	今年度の 重点目標	具体的取組	評価の 観点	成果（○）と課題（●） （%はアンケートの肯定的割合）	対策
教育課程・学習指導	確かな学力の育成	①学習に臨む姿勢の改善。（望ましい学習習慣・学習規律、町小中げんき君プランをもとにした学習習慣や学習規律の改善） ②学習意欲の向上。（UDの考え方による授業づくり） ③授業改善。（『思考し、表現する力を高める』実践モデルプログラム」の活用、ALTの配置） ④個に応じた指導・個をいかす指導の充実。（ICT機器の活用） ⑤家庭と連携した家庭学習の習慣化と充実。（家庭学習の手引きの活用） ⑥読む力の向上と表現力の育成。（読書に親しむ、図書・辞書の購入、ボランティアによる朝の読み聞かせ、学校司書による図書室の整備、本の紹介、掲示の充実、読み聞かせ、朝の全校読書活動「かがやきタイム」）	児童・保護者による学校評価アンケート、教職員の自己評価	○①②③④「学校の学習指導」（保護者）が93.6%、「わかる授業」（児童）が92.4%の肯定的評価だった。 ●②「主体的に課題に取り組む姿勢」（児童）が80.4%の回答であった。さらなる取り組みが必要である。 ○⑤「家庭学習の習慣化」（保護者）が72.3%で昨年度より11.3%向上した。町小中げんき君プラン（町共通指導計画）に基づく学習規律の徹底や、「家庭学習の手引き」の活用、またICTを活用した個に応じた指導が、児童の「家でもやってみよう」という意欲につながった。 ●⑥「読書習慣」（保護者）の肯定率が36.2%（前年比-8.0）と下がった。家庭学習の時間は増えているが、読書に割く時間が減少している傾向にある。	①②③④「思考し、表現する力」を高める授業改善実践モデルプログラムを継続し、ICTとノート記述の良さを生かした授業を展開する。そして、子供たちが「わかった!」「伝えたい!」と実感できる、主体的・対話的な学びを推進する。 ⑤ICTを使いこなすスキルを伸ばし、自学自習の幅を広げていく。 ⑥朝の全校読書「かがやきタイム」を軸に、図書・辞書の活用を進めていく。単に読むだけでなく、各自が主体的に読後の振り返りを行うことで、「心の豊かさ」と「語彙力」を育てていく。

生徒指導	生徒指導の充実 豊かな人間性の育成	<p>①あいさつ運動の推進。</p> <p>②基本的な生活習慣の定着を図る。(ルールの意義を指導、児童会による毎月の目標設定と振り返り、白子町小中げんき君プラン・南白亀小学校よい子のきまりの活用)</p> <p>③全職員で協力して指導(毎月、職員による生徒指導委員会を設け、個々の児童についての現状の共有・意見交換・対策の協議)</p> <p>④いじめの未然防止・早期発見・早期対応。</p> <p>⑤教育相談活動の充実。</p>	児童・保護者による学校評価アンケート、教職員の自己評価	<p>○①「あいさつ」(保護者)が91.5%(+16.2)、②「生活習慣」(保護者)が89.4%(+14.1)と評価が向上したことは、学校・家庭が連携した指導の成果と考えられる。</p> <p>●①「あいさつ」の保護者の評価は向上したが、児童(88%、-2.4)、教職員(85.7%、-14.3)の評価は低下している。職員から率先してあいさつをする姿を通して、児童があいさつすることの大切さを意識できるように努めていく。</p> <p>●③教職員の自己評価で「間違っただ行動を見逃さない指導(85.7%)」を100%にしていく必要がある。</p> <p>●④「いじわるをしない」(児童)の回答が90.2%で、昨年度より-1.9%低下した。日頃の言動から生じるいじめへの対応は、継続的な課題である。今後も、コミュニケーション能力と道徳心の育成を図り、「自分の言葉が相手にどう伝わるか」を考える機会を増やし、児童同士の思いやりの深化を図っていく。</p> <p>●④否定的な回答は真摯に受け止め、全ての児童が安心して登校し、友達と仲良く過ごすことができるよう、相談しやすい環境作りに努める。また、保護者とより迅速に情報を共有できるよう、対応策の見直しを図っていく。</p> <p>○⑤「先生は相談にのってくれる」(児童)という回答は98.9%(+12.1)と向上した。保護者・教職員のアンケートでも、相談体制については90%以上の評価だった。</p>	<p>①②今後はさらなる成長のために、「自律」を促す「白子町小中げんき君プラン」「南白亀小学校よい子のきまり」を軸に、あいさつや清掃などの基本的な生活習慣を身に付けられるよう指導していく。そして、言われてやるのではなく「自ら進んで行う」態度の育成を目指す。</p> <p>③教職員の自己評価で課題となった「間違っただ行動を見逃さない指導(85.7%)」に努める。100%の教職員が意識している「認める指導」を基盤にしながら、規律ある環境を構築していく。保護者にも家庭での児童の小さな変化や、頑張りを学校に連絡するよう促す。</p> <p>④⑤学校全体に「困ったときはいつでも話せる」という安心感が浸透していけるよう、今後も保護者と連携しながら、いじめの未然防止、早期発見、早期解決、豊かな人間関係の構築に努める。「いじめゼロ」への揺るぎない姿勢と100%の信頼が得られるよう、教職員の資質向上と、組織的な対応に取り組む。</p>

<p>特別支援教育</p>	<p>児童一人一人の教育的ニーズに応じた支援、自立と社会参加に向けた生きる力を育てる。</p>	<p>①校内支援体制を整える。(通級指導教室・特別支援学級・専科教員・少人数指導教員・学習支援員・特別教育支援員などによる個別及び小集団での指導実施)</p> <p>②特別支援を必要とする児童への気づき、計画・評価について検討する。(研修や事例検討会を実施)</p> <p>③校内教育支援委員会(6月、11月)や、必要に応じたこどもサポート委員会、研修会を行い、児童や特別支援教育の理解を図る。</p> <p>④児童や保護者との教育相談の充実を図る。</p> <p>⑤個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成を通して支援の在り方を確認し、共通理解を図る。</p> <p>⑥必要に応じて校外からの支援と指導を受ける。(特別支援アドバイザーの派遣、保育所・中学校・特別支援学校・福祉・医療機関・教育相談機関等との連携)</p> <p>⑦特別支援学級の交流及び共同学習の充実と工夫を図る。</p>	<p>個別の指導計画・個別の教育支援計画 学校評価の保護者・教職員の自己評価</p>	<p>○①校内体制の整備と外部連携の強化により、児童一人ひとりに寄り添う土壌が整ってきた。</p> <p>●①支援員の活用は進んでいるものの、より高度な専門知識を要するケースへの対応が必要。</p> <p>○②⑥事例検討会や外部アドバイザーの助言を通じ、根拠に基づいた個別の支援計画(個別の指導計画等)の作成ができた。</p> <p>○③校内教育支援委員会の定期開催、こどもサポート委員会の必要に応じた開催により、特定の教員だけでなく学校全体で児童を見守る「組織的な対応」ができた。</p> <p>●⑤「計画を作る」ことが目的化してしまわないよう、PDCAサイクル(評価と修正)を十分に回すための時間を確保する必要がある。</p> <p>●⑥福祉・医療機関との連携は不可欠だが、連絡調整に多大な時間を要し、リアルタイムでの情報共有にハードルがある。</p> <p>○⑦交流を通じ、児童同士の多様性を認める心の育成や、社会参加への基礎が養われた。</p>	<p>①課題解決に向け、より効率的かつ実効性の高い支援体制へのアップデートが必要。座学中心の研修から、実際の授業場面での具体的な声掛けや環境構成(ユニバーサルデザイン)を学ぶ、実践的なOJTを強化していく。</p> <p>④教育相談において、将来の「自立と社会参加」を見据えた長期的な視点を共有し、保護者が安心して相談できる信頼関係の構築を図る。</p> <p>⑤⑥個別の指導計画や会議録のデジタル化を進め、教職員間での情報共有スピードを上げるとともに、事務負担の軽減を図る。</p> <p>⑦保育所から小学校、小学校から中学校へと「途切れない支援」を実現するため、関係機関との定例的なネットワークを構築する。</p>
---------------	---	---	--	--	---

<p style="text-align: center;">安全管理</p>	<p style="text-align: center;">健康・安全教育の充実</p>	<p>①学校全体で児童の体力向上に取り組む。(校庭の全面芝生化を生かした体育の授業開発や外遊びの励行・いきいきちばっ子健康・体力づくりプログラム「遊・友スポーツチャレンジちば」の実施)</p> <p>②児童個々の心身の健康状態の把握と指導。(養護教諭との連携)</p> <p>③給食指導の充実、食育の推進。(栄養教諭との連携・食育指導、サツマイモの栽培、全校焼き芋会の実施)</p> <p>④危険を予測し、回避する能力を高める指導。(警察と連携した交通安全教室、首都圏防災士連絡会との連携による防災学習、じぶんの命はじぶんで守る危険回避能力の育成、地域ボランティア・保護者による登下校見守り)</p> <p>⑤避難の仕方の徹底。(地震・火災・津波・不審者等の各種場面を想定した防災・避難訓練の実施)</p>	<p style="text-align: center;">児童・保護者による学校評価アンケート、教職員の自己評価</p>	<p>○①「元気よく遊ぶ・楽しい学校生活」(保護者)について 97.9% (前年比+7.0) と大きく伸びた。児童は、外遊びや体育への意欲が高く、元気いっぱいの学校生活を送っている。また、家庭での会話の中で、児童が「学校が楽しい」と話す場面が増えていることも推察される。行事の充実や日々の教育活動が、児童の笑顔に結びついていると考える。</p> <p>●②児童の「めあてをもって頑張った」という回答は 87% だった。</p> <p>●③給食の完食については 66.3% と、課題が見られた。</p> <p>○④「命を守る意識の向上」 ⑤「震災・津波時の行動理解」については、保護者・教職員ともに 100% という評価となった。首都圏防災士連絡会との連携による防災学習の積み重ねが、首都圏直下型地震や南海トラフ地震等を、「自分事」として捉えていることに繋がっていると考えられる。</p> <p>○④「交通安全への意識」は、保護者回答で 97.9% (+8.3) となった。</p> <p>●④「交通安全への意識」児童の回答は 95.7% (-1.7%) と低下しており、登下校の慣れによる危険箇所への「油断」が伺える。</p>	<p>②運動だけでなく、学習や生活面でも「今日はこれができた!」という小さな成功体験を積み重ねられるよう支援していく。</p> <p>③栄養教諭と連携をしながら、食育指導に取り組んでいく。</p> <p>④危険な歩行や自転車の乗り方について、指導を繰り返す。子どもたちの安全は、学校・家庭・地域の三者が一体となって初めて守られるため、保護者にも登下校のルートや約束事について、定期的に子どもと話すよう促す。</p> <p>⑤今後も、南白亀地区における津波被害の可能性を正しく理解させ、避難訓練をより実践的なものへと進化させていく。また、町内の不審者情報や緊急時の連絡では、シグファイ等の活用による「見える化」を図り、保護者の安心感を高めていく。</p>
---	---	---	--	---	--

<p style="text-align: center;">保護者・地域住民との連携</p>	<p style="text-align: center;">「ふるさとに誇りをもつ子どもを育てる学校」づくりの推進</p>	<p>①地域の良さを体感できる取組の充実 （運動会での白子町社会福祉協議会・民生委員協力による一人暮らし高齢者の招待及び白子音頭の実施、南白亀地区社会福祉協議会による「夢サロン」での高齢者と小学生との交流会、民生委員会議の実施、外部講師の講話や職場見学による白子町での職業観の育成等）</p> <p>②地域の人材の積極的な活用。（白子町小中連携教育協議会ふるさと教育部会資料の活用、白子ライオンズクラブ協力による落花生や玉ねぎの栽培・収穫、地域・保護者・子ども合同除草作業、白子ライオンズクラブ、白子町更生保護女性会協力による昔遊び交流会）</p> <p>③各種たよりやHP等を活用した情報の発信内容の充実。</p> <p>④小保連携、小小連携、小中連携（町内小中学校陸上交流記録会）</p> <p>⑤地域との話し合い活動の充実。（町子ども議会への参加、地域懇談会や学校評価委員会の活用）</p>	<p style="text-align: center;">児童・保護者による学校評価アンケート、教職員の自己評価</p>	<p>○①②地域とのつながりや、児童の学校生活に対する充実感が向上した。「地域と連携した教育活動」（保護者）では、肯定的な回答が100%（前年比+9.1）に達した。</p> <p>●③「学校の育成像（めざす子供像）」（保護者）については91.5%（前年比-2.0）と、低下した。各活動は充実しているものの、それらが「どんな力を育てるためのものか」というねらい（学校が掲げる目標）が、見えにくくなっている可能性がある。</p>	<p>①②これからも白子町を愛し、地域の方々に見守られた体験活動が、子どもたちの豊かな心を育ていけるよう、取り組んでいく。</p> <p>③今後は、活動の「成果」だけでなく、その「教育的意図」を分かりやすく地域や保護者に伝えていく。</p>
---	--	--	--	--	--

学校関係者評価

- ・子どもたちは今集団登下校しているのか。
→朝は毎日集団登校、下校は曜日により学年下校となる。送迎の児童も多い。
 - ・1年生から6年生へと、集団登校などでの関わりを通して、段階的に成長してほしい。
 - ・外では子どもたちをあまり見かけない。
 - ・1・6年生の交流の中で、互いの成長を感じてほしい。
 - ・少人数だからこそ、きめ細かく子どもたちを見ることができる。
 - ・給食の完食率が低い、残飯があると給食センターの職員も残念に感じる。1年生は給食を食べるのに時間がかかると思うが、食べる時間は確保されているか。
→給食準備を早めに始めたり、年度始めに6年生児童が準備を手伝ったりするなどして、食べる時間は確保している。
 - ・学校外で会うと、児童がしっかり挨拶している。たまに下を向いて歩いている児童も、挨拶をすると返すことができる。大人が先に挨拶をすることが挨拶の習慣化には大切。
 - ・南白亀小学校ではいじめがあるか。いじめを報告した児童が、教員に報告することでいじめが助長されないようにしてほしい。
→いじめ防止対策推進法の定義に基づき、子どもたちから相談を受けた場合は全ていじめと認知し、組織的に対応している。いじめを報告したことで、児童が不利を受けることがないように、日頃から道徳教育、生徒指導に努めていく。
 - ・新入生の数が少なくなっていると聞いている。学校統合に向けて対応はしているか。
→来年度の新入生は6名を予定している。令和12年度の学校統合に向けて、町内3小学校では、教育課程などスムーズに進められるよう連携、調整している。
 - ・家庭教育学級はどのように取り組んでいるか。学校だけに任せるのではなく、保護者が学ぶ機会が大切。
→情報モラル教室や、薬物乱用防止教室などを行い、保護者にも案内しているが、参加者は少ない。
 - ・特別支援学級と、通常学級との隔たりはあるか。全ての児童の良いところを見つけ、伸ばしてほしい。
→特別支援学級では、状況に応じて振り返りを行いながら、個に応じた学習を進めている。
 - ・アンケート結果から、保護者が家庭学習をさせているのが分かる。その影響か、外で遊んでいる姿を見かけない。もしくは固定化している。外遊びで友達と関わる中で、子どもたちも成長し、体力も向上し、それが学力にもつながっていく。生活習慣病予防の学習を行っていることから、時代の変化を感じる。
→毎年、全児童が新体力テストを行い、体力の実態把握を行っている。測定の結果、平均を下回った場合はその対応策について協議し、体力向上に向けた取り組みを行っている。
- ～6年生を送る会参観後～
- ・子どもたちは、今自分が何をしたいか、自分の気持ちをはっきり言うことができている。
 - ・6年生を送る会では、しっかり学習内容を覚えていた。これからも続けてほしい。子どもたちから元気をもらえた。様々な児童がいる中、楽しむことができた。